

IV-131

鉄道駅における「駅らしさ」に関する研究

北海学園大学 正会員 上浦 正樹
JR 北海道（株） 正会員 白井 幸彦
JR 北海道（株） 高井 真希子
北海学園大学 竹澤 晋一

1. はじめに

1. 1 研究の背景

鉄道駅は都市の玄関としての役割と交通の結末点としての機能、さらに、その空間的特性を発揮することにより、商業的施設、文化的施設及び公共的施設などを組み入れた複合施設を構成できるポテンシャルを有している。しかし、多様化する時代の要請に対応して、駅が今まで以上の多機能を持つコンプレックスセンター化へ志向して行く過程において、本来駅が有すべき不可欠な要素が存在すると考えられ、今後「まちづくり」という広域的観点から考究する必要がある。

1. 2 「駅らしさ」の定義

駅は交通の結末点である事から街の玄関であり、都市としての関わりの中で、日常とはことなる感覚を提供する場で都市の文化を感じ取れる場を提供している。このように駅でしか味わえない感覚を「駅らしさ」と定義する事とする。

1. 3 研究の目的

本研究の目的は、以下に示す3つである。

1. 人々が感じる「好きな駅」と「駅らしい駅」のそれぞれを構成する要因を明らかにする。
2. 「好ましさ」と「駅らしさ」を感じさせる駅の設計をするために必要な要素（空間的特性や構造物の材質等）を明らかにする。
3. 「好ましさ」と「駅らしさ」の要因抽出手法を確立させる。

2. 既往研究と研究の方法

2. 1 既往研究

イメージの評価等を行なう手法としては、SD法と因子分析法を用いた代表的な手法があり、また評価構造だけを効率的に抽出することを目的に開発されたレパートリー・グリット発展手法（以下 R・G 発展手法と言う）がある。この方法は、パーソナルコントラクト理論より派生したレパートリー・グリット法を背景に開発された面接手法である。これは環境評価構造のみを、被験者の思考を追求することにより効率的に抽出する事ができる。

2. 2 研究方法

本研究の方法と手順を以下に示す。

- ①. アンケートによる R・G 発展手法を新たに提案し、これにより各設問から得られた結果を基に樹形

図を作成する。

- ②. 作成された樹形図を評価するためにアンケートの回答を用い、まずブレーストローミング、KJ法によって評価項目を選定し、さらに評価項目の定義づけを行ない言葉の範囲を決定した。
- ③. 任意のグループによって、各樹形図を②で選定された評価項目によって評価する。
- ④. クラスター分析を用いて、樹形図の分類を行なう。
- ⑤. ④で得られた結果の考察を行なう。

3. アンケート R・G 発展手法による評価構造の抽出

3. 1 アンケートの内容について

レパートリー・グリット発展手法の進め方としては本来面接方式で行うものであり、1人の被験者に対して複数の面接官によって行うものなので、精度の高い回答を得ることができる。しかし、既往の方法では開始から終了までの時間が極めて高く、被験者の負担が非常に大きい。そのことから、

属性が偏ってしまう等の問題点がある。そこで本研究では新たにアンケート方式を提案する。ここで、実施前に被験者にアンケートの概要をあらかじめ認識してもらうために、説明過程を加えることによりアンケートの回答の精度を高める。さらに幅広い属性に回答してもらうことで客観性を確保する。

ここで、アンケート調査を実施した。その内容を表1に示す。

表1. アンケート内容

[設問]	設問1 好きな（駅らしい）駅はどこですか。 設問2 好きな（駅らしい）理由は何ですか。 設問3 好きな（駅らしい）理由を一言で言うと。 設問4 好きな（駅らしい）具体的な要素は何ですか。 (北海道内、日本国内、日本国外の駅について)
[対象者]	建築関係者26名《男性22名 女性4名》
[実施日]	1998年9月30日（水）

アンケートの内容として、本研究では人々に好まれ、かつ駅らしい駅を提案することを目的としていることから、「好きな駅」「駅らしい駅」の2項目を設問とした。また、地域別の設問を設けることにより、各地域の傾向把握するため、本研究では北海道内、日本国内、日本国外の駅の3地域を設定した。

キーワード：駅らしさ レパートリー・グリット発展手法

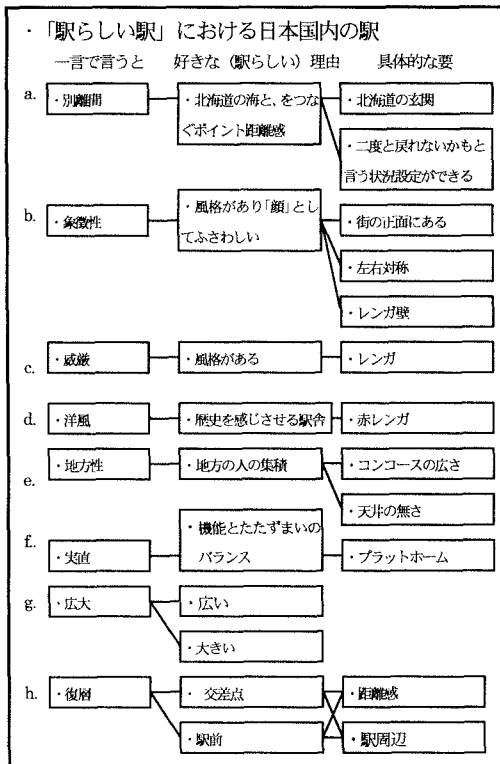
連絡先：〒064-9026 札幌市中央区南26条西11丁目 北海学園大学 TEL011-841-1161 FAX011-551-2951

「好き」「駅らしい」という言葉によって被験者が受ける印象を回答してもらうことで、各被験者が、「好きな駅」「駅らしい駅」とは、どのような駅を指すのか、又その理由と、「具体的な要素」を3段階に分けて設問とした。

3. 2 樹形図の作成

アンケートによって得られた結果を基に樹形図を作成すれば6種類得ることができるが、ここで、「駅らしい駅」における日本国内の駅の結果を示すと、以下のようになる。

図1. 樹形図



作成された樹形図の形態は、左から「一言で言うと」、「駅らしい理由」、「具体的な要素」の順で作成され、この3過程で1つのグループが構成されている。さらにそれぞれは独立しており、これらは最終的に因果関係を表したものである。

4. 樹形図の評価

4-1 評価項目の選定と定義

3.で得られた各樹形図を性格別に分類し、分析するためには、その評価を行なう必要がある。

ここで、評価の基準になる評価項目の共通認識を持つために、各評価項目の言葉の範囲を定義した。評価項目の選出、整理の方法として、本研究では、男性5名、女性2名の計7名でアンケートの回答を用いブレインストーミングを行い評価項目となり得るような要素を選出した。さらに、複数の評価項目をKJ法により、最終的に

22の評価項目に集約した。その結果を表2に示す。

さらに、評価の手順は対象となる評価項目に樹形図の内容が全く触れていない場合を【0】、樹形図の内容が何らかの形で関わっていて、かつ内容が（無し・小さい等）の場合を【1】、内容が（有り・大きい等）な場合を【2】で評価した。

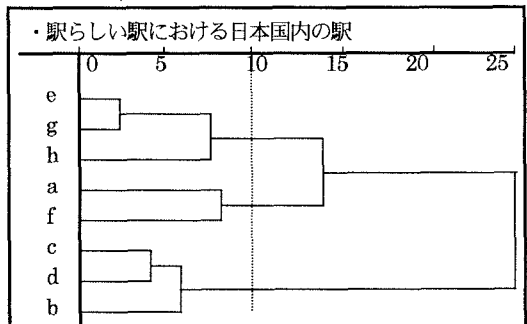
表2. 評価項目一覧

・機械化	・商店	・哀愁	・便利性	・人	・自然	・安心感	・地域
・温もり	・日常	・伝統	・明解性	・つくり	・建物	・空間	・歴史
・駅サイズ	・親近感	・居心地	・象徴性	・清潔感	・スカイライン		

4. 2 クラスター分析

さらに、4. 1の評価結果をそれぞれの樹形図の性格を表す指標として考え、それを用いてクラスター分析を行なった。なお、各地域のデンドログラムを非類似度が10のところまで分類した。

図2. クラスター デンドログラム



5. おわりに

5-1 結果

樹形図と、クラスター分析によって得た結果について単純集計を行った結果、以下のようなことがわかった。

「好きな駅」では駅内部の物や機能についての回答が多く、さらに「駅らしい駅」については、駅内部のほかに駅の周辺地域について駅の「立地の状況」についての回答が多い。さらに「好きな駅」・「駅らしい駅」のどちらにも満足する具体的な物は、「広い空間」と、北海道内では「木目調」であり、日本国内では「レンガ」の作りのものがあげられた。

5-2 結論

- 「好きな駅」、「駅らしい駅」の認識の傾向は、「好きな駅」についてイメージする内容は、駅舎単体に対し、「駅らしい駅」についてのイメージは、駅舎を含んだ周辺環境を含み感じられる傾向にある。
- 「好まれる駅らしい駅」に必要とされる具体的な要素は、広々としたコンコース、ホーム、といった空間で、さらに材質が、レンガである。
- クラスター分析を行い得たデンドログラムので分けた樹形図の駅名がほぼ一致した。そのような傾向は他の対でも多く見られ本研究手法の妥当性をほぼ確認した。